

11月の職員オススメ本



「森栄莞爾と十二人の父を知らない子供たち」
逸木 裕/著 中央公論新社

ある日、自分が精子提供によって生まれた子供だと知らされた十二人。突然の事実戸惑いながらも、自助活動として集められた会合を重ね、その思惑と真実が明らかになっていく。「家族とは何か」「自分が認める親は誰なのか」…血のつながりだけでは語れない絆や、自分の誕生の背景と向き合う姿を通して、家族のかたちを問いかける一冊です。



「リクと暮らせば レンタル番犬物語」
大崎 梢/著 双葉社

八十四歳の照子は、同い年でお互い一軒家で一人暮らしをしている順子の家に不審者が現れた話を聞く。未遂で済んだようだが、照子は自分の身に起こるかもしれないと思い、不安を感じる。そんなある日、ウクレレ教室の先生から、散歩などお世話の心配がないレンタル番犬で防犯対策をしている生徒がいることを知る。気になった照子は、レンタル番犬の会社に問い合わせをしてみるのであった。

レンタル番犬を利用した人々の日々を描いた連作短編小説です。



「クスリごはん」 櫻井 大曲/監修 リベラル社

ちょっと前にテレビドラマなどで話題になった`薬膳`。漢方とか薬膳と聞くと、気にはなるけれど、なんとなくむずかしそうな感じも・・・？そこはガチガチではなくゆるゆると。毎日のごはんに取り入れやすいよう、不調の改善に役立つ食材とレシピが紹介されています。